

松 山 大 学 論 集  
第 30 卷 第 1 号 抜 刷  
2 0 1 8 年 4 月 発 行

## 漱石のライバル重見周吉

—— イェール大学ほか新資料から見える人物像 ——

菅 紀 子

# 漱石のライバル重見周吉

—— イェール大学ほか新資料から見える人物像 ——

菅 紀 子

## はじめに

夏目漱石（1867-1916）は作家になる以前、夏目金之助として帝国大学文科大学を卒業後、1895年学習院にて最初の就職活動をした。同校の教授職に同時に応募していたのが愛媛県今治出身の重見周吉（1865-1928）である。結果は重見が採用され夏目はまさかの敗退に帰した。1914年、夏目は学習院輔仁会の依頼を受け作家漱石として講演を行う。その講演録が『私の個人主義』となるが、その冒頭に自ら駆け出しの苦い経験を紹介している。夏目が就職活動の「敵」と称した人物について、『増補改訂 漱石研究年表』（集英社、1984）では言及されるも不明とされていた。

筆者は『「日本少年」重見周吉の世界』（創風社出版、2003）「漱石のライバル重見周吉と『日本少年』」（『英学史研究』第38号、2005）において重見の生涯を探り、夏目との関わりを追究した。また『日本少年—少年少女版—』（創風社出版、2012）では重見の著書を改訳した。2012年12月には日本英学史学会中・四国支部例会にて、2003年の翻訳研究書出版以後判明した新事実などを、愛媛新聞上に報告をしたものも含め、収集した当時点の全資料を総合報告した。その後重見における漱石のライバルとしての存在は『夏目漱石周辺人物事典』（笠間書院、2014）「立花銑三郎」の項（p.88-91）で間接的にはあるが漸く言及された。当言及は『英学史研究』第38号掲載の論が踏まえられている。しかし十川信介著『夏目漱石』（岩波新書、2016）では、第二章「英語教

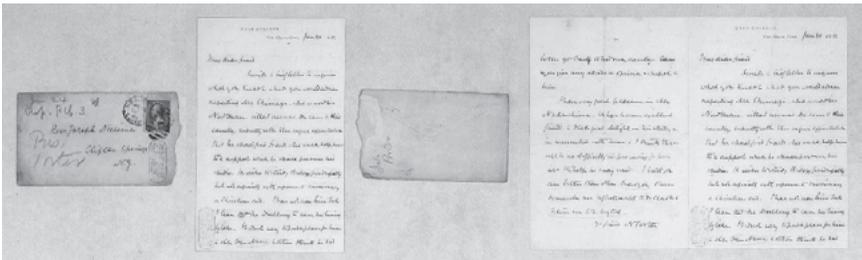
師の漱石」の項にある「学習院は一足先にアメリカ留学生生活の長い、文学博士の採用を決めていた」(p31)という記述が重見のことを指すと思われる。これは誤りである。重見周吉という人物名も紹介されず、さらに正しくは文学博士ではなく医学博士である。

2015年10月27日、筆者は重見周吉が留学し医学博士号を取得したイエール大学の現地調査を果たした。本稿は、同年3月、当該調査旅行に先立ち得られた同志社大学同志社社史資料センター所蔵の新資料、そして10月のイエール大学及びコネチカット州立歴史博物館調査により入手した新資料、さらに重見の故郷愛媛県今治市にて得た新たな発見を紹介し、漱石が没する2年前、不採用となった学習院にて、これから社会に出る若者を前に取立て就職活動のライバルとして意識化した重見の人物像を浮かび上がらせることを目的とする。

## 1. イェール大学長の新島襄宛書簡

同志社大学同志社社史資料センターは新島襄関係の資料の宝庫である。2015年3月、新島襄研究の泰斗北垣宗治先生より、新島襄遺品庫の中から重見周吉に言及した書簡を発見したという御連絡をいただいた。日本国内では重見周吉についての資料はほぼ出尽くしており、新たな物は期待しにくいと考えていたため大変幸運であった!)

書簡は、Yale College の Noah Porter 学長から新島襄に宛てた1885年1月24日付の手紙である。以下に書簡本文を記す。書き起こしは北垣先生に賜った。



資料1 イェール大学 Porter 学長から同志社新島襄宛書簡  
(同志社社史資料センター蔵)

Yale College

New Haven, Conn., Jan. 24, 1885

My dear friend,

I write a brief letter to inquire what you know & what you would advise respecting Mr. Shimegi, who is now in New Haven, without resources. He came to this Country, evidently with the vague expectation that he should find friends who would help him to support while he should pursue his studies. He wishes to study Biology principally but not especially with reference to missionary or Christian ends. I have not seen him but I learn that he is willing to earn his living by labor. It is not easy to find a place for him & Mr. Van Name & others think he had better go back to his own country. Can you give any advice or opinion in respect to him.

I have very great pleasure in Mr. Nakashima. We have become excellent friends & I take great delight in his studies & in conversation with him & I think there will be no difficulty in procuring for him all the help he may need. I trust you are better than when I saw you. Please remember me affectionately to Dr. Clark & believe me to be very truly.

Yr friend N. Porter

(資料1)

この書簡が送られた時、新島は北米に滞在中であった。文面から Porter 学長と新島はかなり親しい関係にあることが窺われる。文中学長は重見周吉が無一文のままイエール大学に在籍していることを懸念し、このまま日本へ帰国させた方がいいのではないかとさえ書いている。

イエール大学長と同志社創立者との間で、双方の学校に学ぶ一学生重見周吉のためにこのような書簡がやりとりされたということは、重見が両者に見守られていた証である。その後、重見は『日本少年』を著し、無事学費を得て見事医学部を卒業したのであるから本人もよく努力したといえる。

なお、北垣先生によると、文中の中島力造は同志社英学校の最初期の学生で、当時イエール大学に留学中であった。後に東京大学の倫理学教授となった人である。Dr. N. G. Clark はアメリカン・ボードの主事(Corresponding Secretary)で、新島の支持者でもあったという。重見はこれらの人物と同じ文面で言及された。

## 2. コネチカット州ニューヘイヴン New Haven, Connecticut

重見周吉はイエール大学のある米国コネチカット州ニューヘイヴンで故郷今治における自伝的英文エッセイ『日本少年』(*A Japanese Boy by Himself*, Sheldon 社, 1889年)を執筆した。

しかし重見はどのようにしてイエール大学の存在を知り留学先に選んだのか。同志社英学校時代に情報を得た可能性が最も高い。その根拠として重見と同時代同校に編入していた熊本バンドのメンバーのなかに、既にイエール大学に留学している者が複数存在したことが挙げられる<sup>2)</sup>。また、重見が故郷を出る際頼りとしたであろう今治教会は、新島襄が来今して発足させた四国初の教会で、初代牧師は熊本バンドの横井時雄(後改名して伊勢時雄)である。横井時雄は熊本の儒学者横井小楠の息子であり、同志社英学校を首席で卒業すると同時に赴任した。横井は新島襄の妻八重の姪、山本覚馬の次女みねと結婚し、短期間であるが彼女を今治へ伴っている。イエール大学にも留学した。重見が京都へ出た後になるが、やはり同志社にも在籍した横井時雄の従弟にあたる徳富蘆花は、3度の来今のうち初回は半年程今治教会に滞在した<sup>3)</sup>。こうした人脈が最も重見をニューヘイヴンへと駆り立てたのではないかと推察される。

また重見の留学以後、重見周吉と夏目漱石の両方に関連を持つ人物にイエール大学へ留学した人物が存在していた。森円月(1870-1955)、愛媛県松山市の出身で、同志社英学校へ進学し、一旦社会に出た後イエール大学へ留学、3年間滞在した。愛媛出身、同志社英学校卒業、イエール大学留学まで重見周吉と経歴が重なっている。しかも森は漱石が晩年になるまで継続して漱石と交流を

続けていたことが、頻繁に交わされた書簡から明らかとなっている<sup>4)</sup>。このことも漱石が晩年まで学習院教授職をめぐるライバル重見の存在を記憶に留める一因となったと考えても矛盾はない。

現地入りまでに目的とする調査資料の情報を事前入手し閲覧予約することにより、僅か一日半の現地調査で資料に接することが可能となった。手順としては初日午前、重見の学部時代の記録が残るイェール大学スターリング図書館 (Sterling Memorial Library) を訪問、その奥にある文書館 (Manuscripts and Archives Collection) を予約訪問した。続いて午後医学部エリアへ移動、医学部図書館内、クッシング-ホイットニー医学歴史図書館 (Historical School Cushing/Whitney Medical Library) を予約訪問した<sup>5)</sup>。文書館の Sheffield Scientific School, Yale University, Records という資料中 Box 102, Folder 119 が重見のファイルである。

2015年10月27日午前10時、街一带にイェール大学の様々な施設が点在している中を少し探した後、間もなく目当ての図書館に辿り着くことができた。全体に殆どが石造り、煉瓦造りでヨーロッパの都市の旧市街を思わせるような佇まいを持つ。散策するブロックの間から何棟もの縦長い尖塔が聳え立つのが見られた。重見は『日本少年』のなかで次のように述べている。

「港の左側海岸に広がっているのが今治の主要地帯である。(中略) もっと近寄っていくと、白壁の倉庫、海神を祀る社が海に張り出していて、そして城の石垣が視野に入ってくる。教会のような尖塔は全く見えない。尖塔とはキリスト教社会では、離れたところからでも都市の在り処が分かる、尖った建築物だ。確かに、仏教社会でいうと、仏塔は空に向かってそそり立っている。しかしそれは尖塔よりもっと精巧で費用のかさむものなのだ。今治はそういう建築物を持つには貧しすぎる土地だった。」

(『日本少年』第1章抜粋、拙訳)

キャンパスの敷地内に建つ尖塔の数としては大変多い。重見周吉にも印象的に映ったのだろう。彼がニューヘイヴンの地に暮らしていた息遣いを確かに感じることができた。

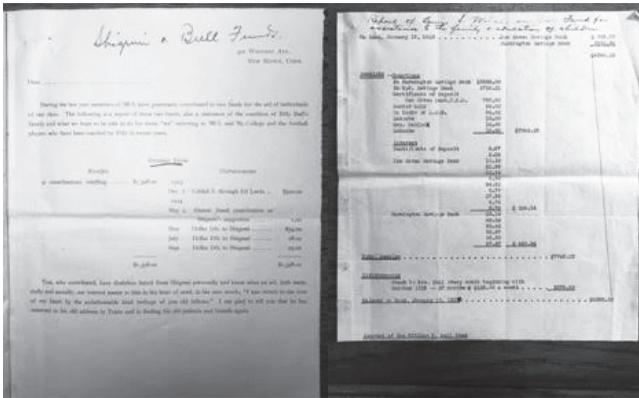
### 3. イェール大学スターリング図書館の資料 Manuscripts and Archive Collection

重見の学部時代の記録が残るイェール大学スターリング図書館 (Sterling Library) に入館, さらに細長い通路を抜けてその奥にある文書館 (Manuscripts and Archives Collection) に進み, 予めネットで手続きをした筆者の個人登録番号を告げると, 既に倉庫から取り出された指定番号のボックスを一つ渡される。得られたのは主に同窓会の資料であった。時系列に紹介する。

#### 3.1 重見基金 Sterling Library Archive Collection Shigemi Fund

イェール大学スターリング図書館の Shigemi ファイルに予想外の資料を発見した。Shigemi Fund (重見基金) と名付けられている。重見基金には何度かにわたり, 金銭の授受が記録されている。重見基金では, 同窓生達が重見にまとまった寄付金を送金した記録がしっかりしている上, 送金が記録されているので専用の銀行口座があった可能性がある。合計 41 回の寄付記録があるので, 41 人が 1 回ずつかあるいは 1 人が複数回寄付したかもしれないが, 緊急で短時間に集まった寄付金なら 41 人の可能性が高い。寄付したのは '88 S のメンバー, '88 S とは 1888 年 Science の卒業生である。重見は感謝の気持ちを形として, '88 S が所属している Alumni association (大学公式同窓会のような組織と思われる) に \$1 寄付している。

記録を見ると, Ed Leeds が 1923 年 12 月 7 日に \$500 の送金を受け取った記録がある。その後, Leeds が重見にお金を渡したと思われる。重見が直接送金を受け取れない状況や理由があったか, Leeds 本人が Shigemi Fund の管理人であったなどの可能性も考えられる。Dollar Dft は Dollar Draft の略で, 1924 年,



資料2 Shigemi Fund  
 (イェール大学スターリング図書館蔵) ©N. Kan

小切手のような money order が重見に3回にわたり届けられた(資料2)。

Shigemi Fund が出来た理由は、重見周吉が1923年に地震・火事の災害があり、怪我もした事を米国の1888 S 同期卒業生達が知り、心配したことによる。これがまさに1923年9月1日発生した関東大震災であったと思われる。重見はクラスで唯一の東洋人学生として、現役時代はもとより帰国後32年を経てもなお皆から慕われ支援されていたのである。また重見の方も、「故郷今治には縁遠くなったうえ東京の交友関係よりもイェール大学に馳せる思いを後年まで強く持っていた」と代筆の宣教師 Rowland が記している。書簡によると、重見は一時横浜へ避難していたが東京へ戻り、医院を再開して元の患者も戻りつつあるという報告がある<sup>6)</sup>

なお同一のファイル内に Bull Fund と呼ばれるものも入っていた。これは同じ'88 S クラスの William F Bull が何らかの理由で金銭的に困窮しており、それを助ける基金と思われる。Shigemi & Bull Funds と書かれ、同一の書類に二人の寄付を記録したため同封されることになったと判明した。

### 3.2 重見周吉の墓の写真

写真を収めた封筒には

SSS

Class Records

Class of 1888

Shigemi, Shiukichi, Dr

写真の裏には

Grave of Dr. Siukichi, Shigemi

1888 S

Aoyama Cemetary, Tokio

と記されている。

筆者は2002年に青山霊園の墓を発見したが、その墓の姿になる以前には、関東大震災を経験したため、「倒れないように自然石を横に寝かせた」という親族の手紙を確認していた。墓の写真はそれ以前の最初期のものと思われる(資料3)。筆者は2001~2002年にかけて墓の調査をしたが、重見という名の墓碑がなかったため発見は難航した。3度目の青山霊園訪問で墓を発見したが、墓碑銘は野島家であった。野島は妻加津の旧姓である。発見と同時に墓を管理する野島家の御子孫に連絡を取った<sup>7)</sup>。数年後、墓地には新たに碑が加えられ、重見が『日本少年』著者であることを知らせる文字が刻まれた。こうしてスターリング図書館保管の重見ファイルによって最初期の墓が判明し、2002年筆者発見時の墓、そして重見周吉の著作を伝える碑を加えた現在の形態の3種の墓が出揃った(資料4)。また、重見の死亡時の経緯や墓にまつわる逸話が重見ファイルに保管する複数の人物の書簡によって明らかとなったので項を改め後述する。

なお、SSSとはSheffield Scientific Schoolの略と推測する。重見が学習院教授職の応募で提出した履歴書に記した「理学部」とはこのことを指していると考えられる。大学の学部やコースの名称は国や言語が違おうと呼称を完全に対応



資料3 最初期の墓  
(イエール大学スターリング図書館蔵)



資料4 現在の墓  
©N. Kan

させることは難しい場合がある。日本語名称はともかく、現地資料で Sheffield Scientific School の創設者 Joseph Earl Sheffield についての記録を確認し、由緒ある学部であることが判明した。

### 3.3 書簡

#### 3.3.1 1928年1月22日付

タイプライターで打った手紙は、東京の住所から George M. Rowland というキリスト教宣教師が代理として Judge と Mrs. Cleaveland 宛て（クリーヴランド判事とその妻）に書いたものである〔以後括弧内は筆者コメント、また資料の梗概と翻訳も筆者〕。

梗概訳：昨日午前7:30、重見周吉博士は突然心臓発作により他界した。妹の大場夫人（『日本少年』に登場する末妹みつ）は、夫が医師として北海道にいた（当時夫は屯田兵のための医師をしており、みつは北星女学院で教えた経験もある）が、子供の教育のため東京に滞在中であり（おそらくその一人であろう、みつの息子大場勝利は慈恵会医学校の教授となった。重見自身同校で3年間教鞭をとった）、重見博士と Rowland との夕食に一度同席し楽しく過ごしたこともある。Rowland は大場夫人とは1887

～89年お互い同じ学校で教師をしていた間柄である（学校名は不明）。彼女は既に夫の元に戻った。大場夫人と子供達は長老派教会に属していたので自分の到着する直前に内輪の親族だけで儀式を済ませていた。未亡人によると、彼女は重見からいつ非常事態が起こっても覚悟をしておくようにと繰り返し聞かされていたので準備はできていた。埋葬は今日の午後である。

以上の内容で、報告が遅くならないようお知らせすると書き添えてあった。

### 3.3.2 1928年6月13日付

Rowland から Dr. Chas. G. Miller 宛ての書簡。

（調査により Rowland は重見家や妹みつの大場家など親族と家族ぐるみで親しい東京在住の友人牧師であり、Dr. Miller はニューヘイヴン在住の1888年組同窓会事務長であることが判明した。）

梗概訳：昨日重見の未亡人が1888年 S. S. S. 35周年の写真を持って訪れた。彼女によると夫は生地（愛媛県今治）からはすっかり離れ、イエール大学の友人達との友情の絆の強さからか日本人の親友を作り損ね、彼の話は常にニューヘイヴンの皆さんと共にあったという。そしておそらく最後になるであろう同窓会40周年のメッセージとして、Rowland は、夫人が重見博士に代わって祝電を送るための手伝いをした。

このコピーを Cleaveland 判事にとの添書。

そのすぐ下に Answer として Miller 博士が色違いのタイプ文字で打った文面がある。

梗概訳：我々88年組は重見夫人からのメッセージを大変喜んでおり、日

本人のクラスメートへの哀悼と称賛の意と共に未亡人へのお悔やみを申し上げる。近年重見に会ったのは Taylor 博士のみで、4年前の再会で大学時代の友情を新たにした。前回我々のお悔やみの印として 200 ドルを重見夫人に送る決議をしたので同封する。高額ではないが、使い方について助言をしてあげていただきたい。重見博士が我々同窓生をそのように高く評価してくれていたことを大変嬉しく思い、大学時代の友情が長く保たれていたことを確認した。重見氏は唯一の外国人だったので同窓生全員が彼のことを最も鮮明に記憶している。また我々は、重見氏の真剣さと同様、彼の優しさと公平性に早くから感銘していた。我々は彼の死を悼み、重見未亡人に心から哀悼の意を捧げる。いずれ同窓会 40 周年の写真と過去 15 年の同窓会の歩みをしたためたものを送る。

### 3.3.3 1928 年 8 月 18 日付

Dr. Miller から重見夫人宛ての書簡。手書き。

梗概訳：あなたの電報メッセージ “Grateful Greeting” は無事届き、クラスメート全員が歓迎した。他界した同窓生の名が読み上げられる間は全員が首を垂れて重見周吉の死を悼んだ。我々は皆あなたの夫をとっても愛し称賛した。なかでも彼は突出して我々の大学生活を形作っていた存在だ。彼には好ましく高貴な特質が備わっていた。我々のクラスでこの旧友の思い出と未亡人のお悔やみのために募った 200 ドルをこの手紙に同封する。使い道については Rowland 氏があなたに助言する。これは我々から彼への最後の愛のしるしとし、また夫に先立たれた夫人への同情の証として送る。

### 3.3.4 1928 年 10 月 13 日付

Rowland から Dr. Miller 宛ての書簡では次のように返答してあった。

梗概訳：重見夫人宛て8月17日付の書簡は重見夫人の不在、転送された Rowland の不在により転送を繰り返し、読むのが遅れた。その事情を説明した後、夫人は88年組からの小切手を受け取り同窓生の皆さんの好意に大変感謝したと伝えている。使い道は Rowland に相談する前、第一に墓の手入れ、第二に墓の永年管理、第三に夫人亡き後も墓前で周年の供養を行うことと既に決めてあった。夫人は同窓会40周年の写真と15年の歩みが届くのを心待ちにしている。

最後に夫人に代わってお礼の言葉を述べ、また友人に配るためにと Dr. Miller が望んだ17枚の重見の写真と同封すると書き添えている。

### 3.3.5 1928年12月1日付

Rowland から Dr. Miller 宛ての書簡。

梗概訳：88年組の同窓写真は重見夫人の手元に届いた。夫人には英語は読めないものの、同窓生の変わらぬ哀悼のメッセージに慰められた。

重見夫人が先に決めた寄付金の使い道については以下に示したとおりであるが、その頃夫人は病に罹り個人医院に入院した。面会に行こうとしたときには既に不治の病で助かる見込みがないことを伝えられており、このような事態を予知していたかのように早急に夫の墓を完成したいと望んでいた。夫人の切なる願いは地震に見舞われても損害を受けない低く幅広い墓碑を作ることであった。Rowland が若者二人を連れて青山霊園へ行くと、様々な墓石と石切り機があった。我々は比較的形の良い、プリマスロックに似た石を見つけた。しかし若者は依然としてもっと良い石を探そうとした。

重見夫人の病状は快方に向かわなかった。彼女の問題は個人医院の医師の悩みの種であった。やがて彼女は診断と治療にもっとよい医療機器を備

える慶応病院に移された。しかし彼女の病は最高の医師の英知をもってしても叶わず、悪化の一途をたどり、11月27日午前6時永眠した。解剖が行われたが、さらなる病理解剖をするまで死因はわからない。

Rowland が思うのは、重見夫人の心と精神の中に、キリスト教思想と原理が宿っており、葬儀はキリスト教様式でなければならないという最期の要望があったのだと。詳細のほとんどについて相談があった。若い牧師が自宅での小さな礼拝に来たが、その後自分一人で埋葬に立ち合い最後の祈りを捧げた。また彼等の求めに応じ、昨日夫の傍らに遺灰を収める儀式に関わった。

いま一度、88年組の決して途絶えることのない友情は（共に故人となった）周吉と彼の未亡人に寄り添い深く影響していることを言っておきたい。たとえ近親の者が魂を移されたとしても、既に受洗し信仰を持つ女性は神への忠誠を新たに志向し、また若き者は明らかにキリストの教えへと向かう。きっと他の者達もいざなわれるという言葉による指針を得ずとも向かうだろう。神に感謝し勇気を持つとう。

2002年に青山霊園で実施した筆者の調査においても、重見の妻加津が周吉の没後、後を追うごとく同年秋に没したことを、周吉と隣り合って刻まれた墓碑銘で確認していたが、周吉の妻の消息までがこのように詳細にイェール大学の同窓仲間達に伝えられていたのである。

以上5通の書簡を分析した結果言えるのは、重見周吉は、卒業後ニューヘイヴンを離れ遠く日本で暮らしたものの40年近くにわたり1888年組の同窓生達と友情を保ち、慕われていたことである。重見の人格の高さと人望の厚さを裏付ける証拠となろう。

#### 4. イェール大学医学歴史図書館

##### Historical School Cushing-Whitney Library

事前アクセスによりネット登録は済ませてある。入口でパスポートと交換に入館証を得てさらに奥の資料室に行くとまた既に指定したボックスが取り出されている。医学歴史図書館に保存されている重見周吉のファイルの中身は彼の手書きの博士論文である。

Thesis

S. SHIGEMI, Ph.B

Class 1891

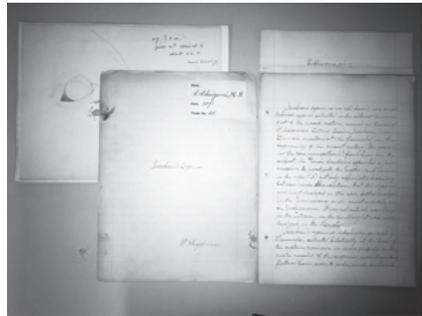
Thesis no. 28

JACOBSON'S ORGAN

重見は『日本少年』を出版し医学部の学費を調達した。Ph. B は Biology の略であろうか。北垣宗

治氏発見のイェール大学当時の学長 Porter から新島襄へ宛てた書簡の中に、「重見周吉は生物学に関心を抱いているようだ」という記述があるので、本人はその願いを遂げたといえることができるだろう。

論文には整った筆記体の文章のほか手描きのイラストが多数含まれている。まとまったページ数がある上、筆者の専門外なので文章は諦めせめてイラストだけでもすべて写真に収めておこうと撮影したが、鉛筆らしきもので描かれているため筆跡が薄く、125年の年月が経っている（筆者の訪問時点）ため不鮮明である。確認した限り、豚を使った複数のサンプルスケッチが19枚、その他解剖図らしき図と解説図らしきものを11枚写真撮影したが、解剖図らしきものについている通し番号の一番大きい数は pig 21 mm, m, slide XXII であった。そのうち解剖図、解説図の方には紙の周囲全体に画鋏で留めた穴が空いている。どこかに展示されたい。しかも穴の間隔の加減から、展示され



資料5 博士論文

(イェール大学医学歴史図書館蔵) ©N. Kan

たのは一度だけではなかった様子である。因みにイエール大学医学部は米国で最初に創設された医学部であり、図書館棟の建築も威風堂々であったことを付言させていただく。

## 5. ハートフォード, コネチカット州歴史博物館 Hartford, Connecticut Historical Society Library

ニューヘイヴンから北上しコネチカット州都, ハートフォード (Hartford) のコネチカット州歴史博物館内のヒストリカルソサエティ図書館 (Connecticut Historical Society Library) に新資料を期待し訪問した。少なくとも事前調査で『日本少年』の原書が所蔵されていることは確認済みである<sup>8)</sup>。

現地ではまず、原書を手に取り確認した。『日本少年』は学習院の履歴書によると1889年 New Havenにある Sheldon 社発行の初版と1890年 New Yorkにある Henry Holt 社発行の重版とがある<sup>9)</sup>。コネチカット州歴史博物館では初版の方が所蔵されていた。筆者がロンドン漱石記念館長恒松氏を通じてロンドンの古書店で入手した初版本の表紙は群青色の生地に金の型押し of 自筆文字も鮮やかなままであるが、当地のものはかなり色褪せていた。多数の人手に渡り読まれたのかもしれない (資料6)。



資料6 原書  
(コネチカット州歴史博物館蔵)  
©N. Kan

次に、新たに新聞記事が2本見つかり入手した。ニューヨークタイムズの書評 Notes from Yale. New York Times (1857-1922) : Oct. 20, 1889 および A Hollandish Novel に始まる一連の書評中 New York Times (1857-1922) ; Jun 8, 1890 である。内容にも踏み込み記者自身未知の日本に興味を覚えていることが伺われる。書評については2004年に筆者が発見し愛媛新聞に発表した New Englander and Yale review. Volume 52. Issue

239, February 1890 を出典とする Current Literature. p167-168 がある<sup>10)</sup> これはニューヘイヴンの地域を中心としており、後のイエール大学紀要に繋がると考えられる。ニューヨークタイムズ紙は中でも広い販路を持つ代表的な新聞であり、読者の拡大と売上げ増にも影響を与えたであろう。

これらの書評発見により、学習院教授職応募のための重見の修学履歴書に記された言葉「以テ学費ヲ継クヲ得タリ」もあながち誇張ではないだろう。さらに、このようにして人間的信用と能力を認められれば、同履歴書中「在米中十余種ノ新誌ニ投書シ其内二三社ニハ時々編集局雇トナリシニアリタリ」という文言にも真実味が増す<sup>11)</sup> (後述する Obituary にも書籍出版と編集執筆により学費を得ながら卒業したとある。)そして学部卒業後もニューヘイヴンに留まり、Porter 学長と新島襄との間に交わされた懸念を余所に国費も奨学金もなしに医学部進学を果たした。

## 6. New Haven Directory

Directory (住所氏名録) の記録は1年分ずつハードカバーつきの書籍の形で保存されている。1冊ずつ地図と広告もあり当時のニューヘイヴンの街や産業の様子を垣間見ることができる。生憎重見の留学中初版本を発行した1889年度の1冊のみ紛失していたが、それ以外の留学期間中は全ての年度版が存在し、重見の名前を認めることができた。重見は広大な敷地に点在するイエール大学キャンパスのなかでも中心地域に近い至便な位置に居住していたことがわかった (資料7)。以下抜粋する。

1886年版 p 407

Shigemi Shiukichi, student, bds 330



資料7 New Haven Directory 1888年版  
(コネチカット州歴史博物館蔵) ©N. Kan

## Orange

1888 年版 p 433

Shigemi Shiukichi, student, 6ds. 8 Prospect place

1891 年度版 p 389

Shigemi Shiukichi, student, Y. C. bds 330 Orange

名前の綴りはシウキチと表記されている。『日本少年』の著者名も同様である。

次に、『日本少年』前書きの部分に登場し重見が謝辞を述べた Henry Walcott Farnam は本人の下宿先から至近距離のところに住していたことがわかった。重見は同教授に敬意を払っており、居住地の位置関係からも公私共世話になった恩人であったのではないかと察せられる。

1888 年版 p 601

Henry W Farnam, M. A., R. P. D., Prof. of Political Economy, 43 Hillhouse av.

重見が初版本を出したシェルドン社も認めることができた。

1891 年度版 p 475

SHELDON E. B. CO. THE, (E. B. Sheldon, pres., E. H. Parkhurst, sec. and treas., C. S. Butler, supt.) electrotypers and printers, 103 Meadow - See front col'd p IX

## 7. Obituary

2003 年翻訳研究書発表時点では、国内資料のみを元に重見周吉の足跡を辿り、全く未知の段階からそれらを総合してパズルを埋めるように人物像を構築してきたが、イェール大学 Obituary によりそれらを再確認することができた。

BULLETIN OF YALE UNIVERSITY  
NEW HAVEN 15 SEPTEMBER 1928



Obituary Record of Yale Graduates  
1927-1928

Sheffield Scientific School

223

one of the organizers of the Yeamans Hall of Charleston, S. C., serving as its president in 1925 and 1926; member Yale Engineering Association and St. Bartholomew's Episcopal Church, New York.

Unmarried.

Death due to pneumonia. Buried in Kensico Cemetery, Valhalla, N. Y. Survived by mother, a sister, Mrs William Fahnestock, of New York, and two brothers, John M. Goetchius, '94 S., and Morgan Goetchius, '04

Shiukichi Shugemi, Ph.B. 1888.

Born November 22, 1865, in Imabari, Japan  
Died January 20, 1928, in Tokyo, Japan

Father, Mohei Yatsuzuka (after adoption, Mohei Shugemi), a merchant Mother, Shige Shugemi

Attended the Doshisha Academy from 1879 to 1884, graduating in the latter year; subsequently came to this country and prepared for Yale at the Hillhouse High School, New Haven. Biology course; vice-president of his class Junior year.

Studied in Yale School of Medicine 1888-1891 (M. D. 1891; member of Nu Sigma Nu and Delta Epsilon Iota); during his course lectured in various places and published a book entitled *A Japanese Boy* (published in New Haven in 1889 and later by Henry Holt & Company); returned to Japan in 1891 and had since been engaged in the practice of medicine, in Yokohama during 1891-92, and since then in Tokyo; taught in Tokyo Charity Hospital Medical School three years, also taught English in the Peers' College for nine years, had not been a regular church attendant, but held to his Christian faith throughout his life.

Married February 1, 1894, in Tokyo, Kazu Nakazawa, daughter of Heikichi Nojima. No children.

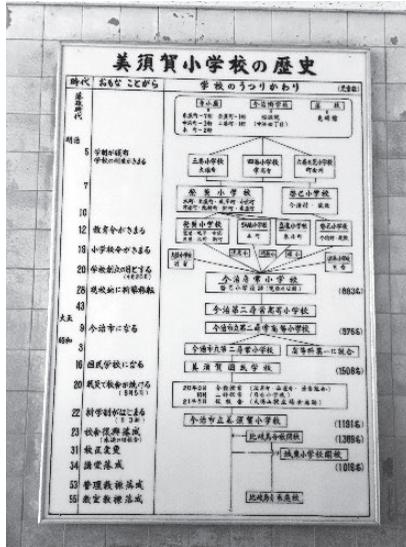
Death due to paralysis of the heart. Cremation took place and the urn of ashes was interred in the Aoyama Cemetery, Tokyo, on April 15. Survived by wife and four sisters, Mrs. Hira Ochi, of Imabari, Mrs. Chiyō Okamoto and Mrs. Kusayo Yamada, both of Tokyo, and Mrs. Mitsuko Oba, of Oshima.

#### 資料8 重見周吉の死去記録 (イエール大学蔵)

また、『日本少年』に登場する末の妹みつ以外の姉妹については新たな事実を得ることができた(資料8)。

### 8. 小学校の発見

重見の学習院修学履歴書に従い筆者は故郷愛媛県今治市を調査してきたが、本籍地や出身小中学校は特定できないままであった。しかし2015年10月22日、今治市立美須賀小学校内の渡り廊下に同校の変遷を図式化した掲示を発見、履歴書に記載された「弘敞小学校」なる校名を発見した。(余談だが筆者の出身校であった。)翌2016年当小学校は周辺4小学校を統合する形で閉校した。『日本少年』は重見が記憶のみを頼りにニューヘイヴンで著した自伝的作



資料9 今治の出身小学校

©N. Kan

品であるがその舞台である今治の場所を新たに一つ確定することができた（資料9）。

### 9. 全身写真の発見

2017年11月松山市坂の上の雲ミュージアムにて『日本少年』重見周吉の世界展を開催した。筆者は展覧会のパネル編集にあたり、これまで調査収集した資料を確認更新するため東京慈恵会医科大学医学情報センター、同志社大学社史資料センター、学習院アーカイブズと学習院大学図書館を訪問した。そのなかで2017年10月20日、東京慈恵会医科大学医学情報センターにて、重見周吉の全身が写った集合写真を発見することができた。集合写真とは明治24年度慈恵会医学校卒業写真で、前列中央には創立者高木兼寛をはじめ教授陣が並んでおり、重見周吉は右端にいる。重見は当時イェール大学医学部を卒業後帰国間もない頃で、年齢は27歳である。それまで重見の写真はイェール大学図

書館に保存されている上半身の肖像一枚のみであった。前列どの教授よりも格段に若い。『「日本少年」重見周吉の世界』（2003）で論じたように、当時医学の主流はドイツ語で行われていたが創立者高木兼寛は英国医学を学んだ。ドイツ医学の軍医森鷗外と高木が脚気論争を引き起こし高木の栄養説に軍配が上がったことは有名である。米国から戻ったばかりの重見は英語で医学を教えようとした創立者の意に叶う人材であったと考えられる（資料10）。

同時に、同大医学情報センターにて、『日本少年』に度々描写されている末の妹みつの息子で慈恵医大の教授となった大場勝利の新たな写真も発見した（資料11）。



資料10 東京慈恵会医学校明治24年度生卒業写真



資料11 甥 大場勝利

（資料10, 11 共 東京慈恵会医科大学医学情報センター蔵）

## ま と め

以上イエール大学学長の新島襄宛書簡、イエール大学図書館、同医学部歴史図書館、そしてコネチカット州歴史博物館において新たに確認した資料の事実により、重見周吉の学習院履歴書、自著『日本少年』中の記述の米国留学先における背景と裏付けならびに同窓生一同による高い客観的人物評価を得、加えて故郷の小学校を確定することができた。よって重見周吉は異文化交流の先駆

者として誇るべき人物であったといえる。

夏目漱石と重見周吉は就職活動のライバルであったが、直接会った痕跡はない。しかし夏目が『私の個人主義』で24年前の学習院採用の顛末を持ち出した拘りから察せられるとおり、二人の関係性においておそらく重見の最大の貢献の一つは、間接的に夏目金之助を東京から地方（松山と熊本）へ修行に出し、安泰な学習院教授に終わらせなかったことである。また漱石は熊本時代、留学を断りかけたほど一時は留学にわだかまりを持っていたが結局渡英を果たした。その経験なしには小説家漱石はないとさえ言える。文系の国費留学第1号となる金之助にとって留学は国費で賄われて当然であり、ロンドン滞在中それも足りないところばした。正岡子規は元松山藩の庇護を受け東京では藩の子弟専用の常盤会に下宿することができた。帝国大学で知り合った二人は、将来国の中枢を担う官僚や知識人財界人となる道が開かれた校友たちの中で、エリート意識も自然に備わっていただろう。『坊つちやん』の登場人物赤シャツは漱石の断片的な分身でもあると本人も語っている。対して重見は留学への強い願望を貫きキリスト教会の援助だけをつけてに私費留学を果たした。最終的には市井の医者で生涯を閉じるが、立派な自己実現者であることに間違いのないのである。夏目が一度留学に消極的となり、博士号を固辞した背景には、留学先で医学博士号を取得し、学習院の教壇に立つためモーニングまで用意していた自分を斥け学習院に採用された重見に対する素朴な意地のようなライバル意識が残っていたのかもしれない。

※本稿は2016年11月、松山大学樋又キャンパスにて開催した第53回日本英学史学会全国大会の発表に基づくものである。

#### 注

- 1) 重見周吉は愛媛県今治市生まれ、同志社英学校を卒業後、イェール大学に私費留学した。学部卒業後医学部へ進学、『日本少年』を出版して学費を繋ぎ医学博士号取得。帰国後学

習院、慈恵会医学校に奉職する傍ら重見医院を開業。

- 2) 熊本洋学校出身、第1回生で同志社を卒業しイエール大学に留学した者は次の通り。浮田和民（1859-1946）イエール大学修士取得。同志社、早稲田大学教授。森田久万人（1858-1899）イエール大学講師、同志社教授。横井時雄（1857-1927）同志社教授、東京本郷会牧師、第三代同志社社長。当時イエール大学へは10名近く留学した。（田中啓介氏 2005. 10. 22）
- 3) 菅紀子「文化愛媛 No. 75」（公益財団法人愛媛県文化振興財団，2015），えひめ文学館 36 徳富蘆花『思出の記』p 55-57
- 4) 「円月と子規・漱石」愛媛新聞 2017 年 3 月 30 日～4 月 24 日まで 17 回連載記事（同紙岡敦士記者）は森円月の子孫への取材，円月と漱石との間の書簡などにより二人の長期にわたる交流が確認できる。
- 5) 28 日午前にはアジア部門所属スタッフ中村治子氏に面会した。氏はイエール大学に在籍した日本人の人脈の連鎖関係を調査中である。それによると，当時正規留学生ではない遊学者も数多く存在することを確認し，非正規留学生をも含めた人の連鎖を知るべきであると考える。明治 20 年前後の人脈図に重見周吉もまた加えられたい。
- 6) 「米留学後 30 年以上の関東大震災 被災の報に同期生が基金」愛媛新聞 2017 年 1 月 16 日付
- 7) 菅紀子『「日本少年」重見周吉の世界』（創風社出版，2003），後日の墓発見 p 242-250
- 8) コネチカット州歴史博物館蔵『日本少年』原著の情報は容應英氏より御提供いただいた。
- 9) 菅紀子『「日本少年」重見周吉の世界』（創風社出版，2003），重見周吉の履歴 p 170-171
- 10) 愛媛新聞に記事化された。「重見周吉（今治出身）英文エッセイに書評 日本人に騎士道あり」，2004 年 3 月 26 日付
- 11) 菅紀子『愛媛大学法文学部同窓会報 No. 19』「就活のライバルー夏目漱石と重見周吉」p 20 に重見の学習院応募履歴書を全掲載。  
（書評原文および訳文，Obituary 訳文は誌面の都合上割愛した）

## A Rival of Soseki, Shukichi Shigemi

— From newly found documents at Yale University and others —

Noriko KAN

Soseki Natsume applied for a position at Gakushuin when he first looked for a job in 1895, but he failed. The person who beat Natsume was Shukichi Shigemi, a graduate from Yale Medical School. Years later, in his lecture as an established novelist at Gakushuin, Natsume recalled his defeat, calling Shigemi an “enemy”. The lecture was later published with the title *My Individualism*.

Little had been known about Shigemi, even among Soseki Natsume researchers, before the author published *A Japanese Boy by Himself - The World of Shukichi Shigemi* in 2003, a translation of Shigemi’s book written and published in the United States with a monograph on the relationship between Natsume and Shigemi. After publishing a revised translation in 2012, the author made a research trip to New Haven and Hartford, Connecticut in 2015 and found some documents related to Shigemi. A letter from the President of Yale to Jo Niijima concerning Shigemi was also found at Doshisha University in the same year.

This paper deals with the newly found facts about Shigemi and tries to shed new light on Shigemi’s personality and the relationship between Natsume and Shigemi based on the new findings.

## 松山市 子規・漱石生誕150年プロジェクト 二つの展覧会実施報告

### 1. 夏目漱石翻訳書展

時 : 2017年4月28日~5月14日

場所: 子規記念博物館1Fロビー

主催: NPO 法人アイムまつやま

後援: 松山市・松山市教育委員会

協力: ロンドン漱石記念館・熊本市国際交流事業団・愛媛日英協会

企画・構成・バイリンガルパネル・目録作成: 菅紀子

〈協賛事業〉

2017年4月30日

子規記念博物館視聴覚室

公開生放送ラジオシンポジウム「漱石のSEKAI」

主催: 南海放送株式会社

### 2. 『日本少年』重見周吉の世界展

時 : 2017年11月1日~11月20日

場所: 坂の上の雲ミュージアム2Fロビー

主催: NPO 法人アイムまつやま

後援: 愛媛県・愛媛県教育委員会・松山市・松山市教育委員会・今治市・今治市教育委員会・愛媛県文化振興財団

協力: 学習院アーカイブズ・学習院大学図書館・同志社大学図書館社史資料センター・東京慈恵会医科大学医学情報センター・ロンドン漱石記念館・愛媛日英協会・日本英学史学会・創風社出版・岩波書店・今治教会・今治明德学園・愛媛新聞社・朝日新聞社・毎日新聞社・漱石朗読の会@松山・松山坊っちゃん会・和田重次郎顕彰会

企画・構成・パネル・目録作成: 菅紀子

〈記念講演会〉

2017年11月3日

同展展覧会場

講師: 同志社大学名誉教授 北垣宗治氏

演題: 重見周吉のことども

協力: 愛媛CATV 全講演収録番組制作放映

松山市役所 文化・ことば課 取組の報告は以下のホームページに写真入りで掲載

<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/kotoba/shikiseki150.html>

## 夏目漱石翻訳書展

愛媛県松山市は、夏目漱石が明治28年から29年までの一年間、松山尋常中学で英語教師として住んだ都市であるとともに、漱石の親友正岡子規の生誕地でもある。そして漱石と子規は慶応3年生まれの同い年である。漱石没後100周年にあたる2016年には、漱石没後100周年を大会テーマとして第53回日本英文学史学会年次大会を松山大学樋又キャンパスにおいて開催した。(大会会長には新井英夫先生にお願いし、筆者は大会実行委員長を務めた)翌2017年度、松山市は「子規・漱石生誕150年」にあたり記念の取り組みを行っており、「子規・漱石を未来につなごうプロジェクト」と題して参加企業、団体を募った。

そこで筆者は同プロジェクトに登録し、4月28日から5月14日まで、松山市道後にある松山市立子規記念博物館ロビーにおいて、夏目漱石翻訳書展を開催した。展示の翻訳書は32年の歴史を閉じて閉館した倫敦漱石記念館館長恒松郁生氏のコレクションをお借りし、設営は熊本国際交流事業団の主催により開催された漱石翻訳書展を叩き台とさせていただいた。

パネル制作は日英バイリンガル表示とした。また内容は松山開催に独自性を持たせるべく『坊つちやん』のコレクションを充実させた。漱石作品の翻訳の中でも『坊つちやん』は英訳書だけでも破格に種類が多い。筆者は2002年漱石のクラバムコモンの下宿が史跡認定されたBlue Plaque除幕式に参加するとともに、漱石の長女筆子の娘である松岡マックレイン陽子氏とも交流を深めたが、それらは漱石のロンドン5番目の下宿の真向かいに倫敦漱石記念館を開館されていた恒松元館長の働きかけのお陰であった。しかも稀少な言語も含む翻訳書コレクションは、元々倫敦漱石記念館に展示されていたものである。そこで閉館した記念館へのオマージュも込めてパネルには漱石クラバムコモンの下宿と記念館を紹介する内容を盛り込んだ。

企画は想定以上に大掛かりとなり、松山市教育長が正式挨拶、筆者も主催者スピーチをする開展式までおこなった。しかしなにより報われたのは、世界各国語に訳された漱石作品を前に展覧者に思い思いの関心をもっていただけたことである。

また、会期中、南海放送の協力により、会場奥にある子規記念博物館会議室において、恒松氏、筆者、司会アナウンサーの3人により90分にわたる公開生放送ラジオシンポジウムも併催した。

この公開ラジオシンポの打合せをしていた際、倫敦漱石記念館に触れると、恒松元館長はトークに矛盾があってはいけないのでまだ非公開ですが、と倫敦漱石記念館再開の情報を漏らされたのである。実は閉館の後、資料閲覧などを求める声が絶えず、それらの声に個別に対応するのが大変なことを悟り、事前予約に限り自宅で再開することとなった。

共同通信がこのニュースを流したのはその数日後の展覧会会期中であった。大型連休でニュースが品薄になったタイミングを見計らい、狙い通り連休中に発表すると、愛媛、熊本の地方紙を含む新聞各社が記事を載せた。

松山市役所、文化・ことば課(全国でも珍しい課である)のホームページには当プロジェクト報告が掲載されている。



漱石翻訳書展チラシ



子規博ロビー展覧会場



公開ラジオシンポ

## 『日本少年』重見周吉の世界展

2017年は夏目漱石生誕150年の年、春には「子規・漱石を未来につなごうプロジェクト」参加イベントとして「夏目漱石翻訳書展」を子規記念博物館で開催した。そして秋、その第二弾として『『日本少年』重見周吉の世界展』を2017年11月1日から20日まで、坂の上の雲ミュージアムにて開催した。

併催として11月3日13時30分～15時、本展覧会場にて、北垣宗治同志社大学名誉教授をお招きし「重見周吉のことども」と題した記念講演会を行った。同講演会は全て愛媛CATVにより収録放映された。京都から日帰りて来松された先生には、会場のみならず道中においてさえ教え子をはじめ複数の人が訪ねられるのを目の当たりにし、あらためて北垣先生のご人徳に感心した一日ともなった。

展覧会の概要は以下のとおりである。

重見周吉は明治維新の3年前、愛媛県今治に商家の平民として生まれた。漱石、子規の3歳年上、秋山兄弟とも同時代に生きた人物である。本展覧会ではまず、ゼロの状態から約20年にわたり解明してきた重見周吉の人物像と、漱石研究という観点から重見がなぜ漱石とライバル関係にあったのかについてを柱の一つとし、次に重見の英文著書『日本少年』の舞台今治とその周辺が作品にどのように描写されているかをもう一つの柱とした。

前者では、漱石・子規はもとより、坂の上の雲を目指して愛媛から日本を飛び立った軍人秋山兄弟、実業家を目指した冒険家和田重次郎、反戦思想家水野広徳、そして英語を習得して私費留学を果たした上に博士号と医師免許まで取得した重見周吉が同時代人であることを確認し、後者では自著『日本少年』で重見が明治の日本の地方都市愛媛県今治の風土、生活、庶民をして欧米人に「日本」を紹介していることを検証する。

そして当時極東の島国日本を知る術の殆どなかった北米現地に赴き現地の言語である英語を使って執筆した同書出版の意義を、郷土から再確認し検証することを目的とする。

内容は次のとおりである。

展示パネル第1部：

- ①挨拶文5種（愛媛県知事、松山市長、今治市長、元倫敦漱石記念館長、主催者NPO法人アイムまつま理事長）
- ②原書発見のきっかけとなった倫敦漱石記念館写真パネル（翻訳書展より二次使用）
- ③国境を超えロンドン、松山、オレゴンを繋ぐ漱石を介した交流
- ④今治教会と同志社をめぐる人脈の検証、出身小学校の歴史図
- ⑤渡航記録、イェール大学選択をめぐる考察
- ⑥同志社大学新島襄資料館所蔵のイェール大学長から新島襄宛書簡、池袋清風日記
- ⑦東京慈恵会医科大学医学情報センター資料（本展直前新発見写真を含む）
- ⑧学習院教授職応募履歴書、授業時間割
- ⑨イェール大学重見ファイル中、重見基金などの発見資料、コネチカット州歴史博物館発見資料、Obituary
- ⑩同医学部歴史図書館で発見した博士論文とその冒頭解説写真
- ⑪今治周辺関連地図、イェール大学を示す北米地図、東京関連地図、青山霊園パネル
- ⑫青山霊園の墓、イェール大学重見ファイルから発見した最初期の写真と近年の写真

ファイル資料：パネルに載りきれない資料をファイルし、パネルの前に設置した

- ①夏目漱石と重見周吉とのライバル関係を示す根拠となる『私の個人主義』本文の該当ページ
  - ②東京慈恵会医科大学八十五年史、百年史資料
  - ③輔仁会雑誌重見の掲載記事4本
  - ④重見周吉研究を開始して以来報道された各種新聞記事（愛媛、毎日、朝日）
  - ⑤同月愛媛県美術館にて県の主催で開催中の学習院中興の祖安倍能成展パンフレット
- また、県文化振興財団機関誌「文化愛媛」に寄稿した関連記事、愛媛大学法文学部同窓会報に寄稿した英学史研究掲載論文紹介、「松山百点」誌を資料コーナーに置いた



## 夏目漱石翻訳書展出展目録 (2017年4月28日～5月12日, 於子規記念博物館)

| No. | Title   | Title Japanese | Language   |
|-----|---|----------------|------------|
| 1   | Les Herbes Du Chemin                                | 道草             | French     |
| 2   | Zen Haiku   | 禪 俳句           | English    |
| 3   | A Lequinoux et au-dela                              | 坊っちゃん          | French     |
| 4   | Guanciaie d'erba                                    | 草枕             | Italian    |
| 5   | Choses don't je me souviens                         | 思い出すこと, など     | French     |
| 6   | Diario de la bicicleta                              | 禪 俳句           | Spanish    |
| 7   | Habitaciones  | 禪 俳句           | Spanish    |
| 8   | De Poort  | 門              | Duatch     |
| 9   | Kokoro  | こころ            | German     |
| 10  | Petits contes de printemps                          | 草枕             | French     |
| 11  | Botchan   | 坊っちゃん          | Filippino  |
| 12  | Miscelaneasm Primaverales                           | 夢十夜, 思ひ出すことなど  | Spanish    |
| 13  | Kokoro  | こころ            | Spanish    |
| 14  | A L'equinox et au-dela                              | 彼岸過ぎまで         | French     |
| 15  | Le Mineur   | 坑夫             | French     |
| 16  | Ten Nights' dreams                                  | 夢十夜            | English    |
| 17  | Nowaki  | 野分             | English    |
| 18  | Inside my glass doors                               | 硝子戸の中          | English    |
| 19  | (フォントなし)  | 硝子戸の中          | Korean     |
| 20  | The tower of London                                 | ロンドン塔          | English    |
| 21  | Kokoro Dusa   | こころ            | Seville    |
| 22  | Yo, el Gato   | 吾輩は猫である        | Spanish    |
| 23  | The Three-cornered World                            | 草枕             | English    |
| 24  | Ich der Kater                                       | 吾輩は猫である        | German     |
| 25  | Echos illusoires, Du luth Suivi du Gout en heritage | 琴のそら音, 趣味の遺伝   | French     |
| 26  | Travels in Manchuria and Korea                      | 満韓ところどころ       | English    |
| 27  | Atraves da vidraca                                  | 硝子戸の中          | Spanish    |
| 28  | Botxan  | 坊っちゃん          | Spanish    |
| 29  | Kuquk Bey   | 坊っちゃん          | Turkish    |
| 30  | Le 210e jour  | 二百十日           | French     |
| 31  | Oreiller d'herbes                                   | 草枕             | French     |
| 32  | I am a Cat  | 吾輩は猫である        | Thai / Lao |
| 33  | Kokoro  | こころ            | Swedish    |
| 34  | Mon (La Puerta)                                     | 門              | Spanish    |

|    |  |                    |            |
|----|--|--------------------|------------|
| 35 | Las hierbas del camino   | 草枕                 | Spanish    |
| 36 | Spring Miscellany  | 永日小品               | English    |
| 37 | Het Hart   | こころ                | German     |
| 38 | Je Suis un Chat  | 吾輩は猫である            | French     |
| 39 | Almohada de Hierba   | 草枕                 | Spanish    |
| 40 | Botchan  | 坊っちゃん              | Spanish    |
| 41 | (フォントなし)   | こころ                | Thai / Lao |
| 42 | Le Voyageur  | 行人                 | French     |
| 43 | Jestem Kotem   | 吾輩は猫である            | Polish     |
| 44 | Natsume Soseki   | 俳句, 漢詩             | English    |
| 45 | Das gras kissen - Buch   | 草枕                 | German     |
| 46 | La Turo De Lodono  | 倫敦塔                | Esperanto  |
| 47 | Btchan   | 坊っちゃん              | French     |
| 48 | The 210th Day  | 二百十日               | English    |
| 49 | Et puis  | それから               | French     |
| 50 | Sanshiro   | 三四郎                | Italian    |
| 51 | Theory of Literature and other Critical writings                 | 文学評論               | English    |
| 52 | Anima  | こころ                | Italian    |
| 53 | Macska Vagyok  | 吾輩は猫である            | Hungalian  |
| 54 | La Torre de Londres  | ロンドン塔              | Spanish    |
| 55 | Le pauvre coeur des hommes                                       | こころ                | French     |
| 56 | The Heredity of Taste  | 趣味の遺伝              | English    |
| 57 | My individualism and The Philosophican Foundations of Literature | 私の個人主義<br>文芸の哲学的基礎 | English    |
| 58 | Tatsulo na Daigdig   | 草枕                 | Filipino   |
| 59 | (フォントなし)   | こころ                | Arabic     |
| 60 | Cahcho Dateh Bpata   | 三四郎・それから・門         | Russian    |
| 61 | SANSHIRO   | 三四郎                | Italian    |
| 62 | A travers la vitre   | 硝子戸の中              | French     |
| 63 | The tower of London  | 倫敦塔                | English    |
| 64 | Mon Individualisme   | 私の個人主義             | French     |
| 65 | Recollections  | 思ひ出すことなど           | English    |
| 66 | Mon (La Puerta)  | 門                  | Spanish    |
| 67 | haikus   | 俳句集                | French     |
| 68 | Petits contes de printemps                                       | 永日小品               | French     |

以上 恒松郁生氏蔵書

熊本国際交流事業団作成資料を筆者再編集

| No.                             | Translator                    | Title Japanese | Language | Year | Edition | Publisher                                    |
|---------------------------------|-------------------------------|----------------|----------|------|---------|--|
| <b>BOTCHAN</b>                  |                               |                |          |      |         |  |
| 69                              | UMEJI SASAKI                  | 坊っちゃん          | English  | 1968 | 初版      | タトル  |
| 70                              | UMEJI SASAKI                  | 坊っちゃん          | English  | 1998 | 37版     | タトル  |
| 71                              | ALAN TURNERY                  | 坊っちゃん          | English  | 1982 | 4版      | 講談社インターナショナル                                 |
| 72                              | ALAN TURNERY                  | 坊っちゃん          | English  | 2015 | 34版     | 講談社(文庫)                                      |
| 73                              | JOEL COHN                     | 坊っちゃん          | English  | 2009 |         | ペンギンクラシックス<br>Chronology by JAY RUBIN        |
| 74                              | UMEJI SASAKI                  | 坊っちゃん          | English  | 2013 |         | タトル UMEJI SASAKI<br>の前書付 1922年               |
| 75                              | Adaption by<br>Alatair Lamond | 坊っちゃん          | English  | 2013 |         | Eli Readers (イタリア)<br>CD, 練習問題付              |
| <b>KOKORO</b>                   |                               |                |          |      |         |  |
| 76                              | EDWIN<br>McCLELAN             | こころ            | English  | 1957 |         | Henry Regney Company                         |
| 77                              | EDWIN<br>McCLELAN             | こころ            | English  | 1968 | 初版      | Peter Owen Limited British<br>Commonwealth 版 |
| <b>THE WAYFARER</b>             |                               |                |          |      |         |  |
| 78                              | BEONGCHEON YU                 | 行人             | English  | 1987 | 8版      | タトル(初版は1969)                                 |
| <b>AND THEN</b>                 |                               |                |          |      |         |  |
| 79                              | NORMA MOORE<br>FIELD          | それから           | English  | 1988 | 初版      | タトル<br>訳者による Bibliography 付                  |
| <b>THE THREE-CORNERED WORLD</b> |                               |                |          |      |         |  |
| 80                              | ALAN TURNERY                  | 草枕             | English  | 1979 | 7版      | タトル(初版は1968)                                 |

以上 筆者蔵書  
※ただし恒松氏蔵書と重複  
のない作品のみリスト化

#### 絵画作品

| No. | Title         | Reference       | Artist | Year | Media    |
|-----|---------------|-----------------|--------|------|----------|
| 81  | 城戸屋<br>庭の蜜柑の木 | 『坊っちゃん』<br>第10章 | 菅 紀子作  | 2005 | シルクスクリーン |
| 82  | 温泉町の枳屋<br>天誅  | 『坊っちゃん』<br>第11章 | 菅 紀子作  | 2005 | シルクスクリーン |

『日本少年』重見周吉の世界展 展示・出品目録

(2017年11月1日～11月20日、於坂の上の雲ミュージアム)

| No.             | 資料名  | 年代              | 所蔵先・出典元                   |
|-----------------|--|-----------------|---------------------------|
| ◆重見周吉の故郷今治      |  |                 |                           |
| 1               | 今治教会日曜学校名簿   |                 | 今治教会<br>第3代牧師露無文治自筆       |
| 2               | 今治教会史料   | 2003年8月1日       | 今治教会 第8号                  |
| 3               | 伊豫今治町全図  | 明治42年           | 今治市政五十周年記念複製<br>発行        |
| 4               | 今治市周辺地図  | 2004年           | 菅紀子作成                     |
| 5               | 『文化愛媛』No.49「日本少年」は「今治少年重見周吉」                       | 2002年           | 愛媛県文化振興財団                 |
| 6               | 『文化愛媛』No.75「徳富蘆花」                                  | 2016年           | 愛媛県文化振興財団                 |
| 7               | 『文化愛媛』No.78 重見周吉の私費留学 イェール大学を訪問して                  | 2016年           | 愛媛県文化振興財団                 |
| 8               | 愛媛大学法文学部同窓会報                                       | 2015年           | 愛媛大学法文学部                  |
| ◆重見周吉と同志社英学校    |  |                 |                           |
| 9               | 創立120年記念同志社教員名簿                                    | 1996年12月1日      | 同志社教会<br>(北垣宗治先生私物)       |
| 10              | 池袋清風日記   | 1884年           | 同志社大学同志社社史史料<br>センター      |
| 11              | Yale College Noah Porter 学長から新島襄宛て書簡               | 1885年1月24日      | 同志社大学同志社社史史料<br>センター      |
| ◆重見周吉の渡航記録      |  |                 |                           |
| 12              | 旅券発行記録   | 明治17年           | 外務省外交資料館<br>旅券マイクロ検索簿     |
| ◆重見周吉とイェール大学    |  |                 |                           |
| 13              | Shigemi Fund 書簡                                    | 1923年           | イェール大学<br>スターリング図書館       |
| 14              | Sheffield Science School 同窓会 Dr. Miller から重見夫人宛て書簡 | 1928年           | イェール大学<br>スターリング図書館       |
| 15              | 宣教師から同窓会宛て書簡(3通)                                   | 1928年           | イェール大学<br>スターリング図書館       |
| 15              | 宣教師から同窓会宛て重見夫人のための代筆書簡                             | 1928年           | イェール大学<br>スターリング図書館       |
| 16              | 最初期の墓写真  | 不明<br>(2015年発見) | イェール大学<br>スターリング図書館       |
| 17              | Obituary   | 1928年9月15日      | イェール大学<br>スターリング図書館       |
| 18              | 博士論文「Jakobson's Organ」                             | 1891年           | イェール大学<br>医学部医学歴史図書館      |
| 19              | 重見周吉と同年代のイェール大学日本人留学生リスト                           | 2016年           | 容應英                       |
| ◆重見周吉と米国コネチカット州 |  |                 |                           |
| 21              | New Haven Directory                                | 1888年           | コネチカット州歴史博物館<br>(ハートフォード) |
| 22              | New Haven 中心部地図                                    | 2015年           | ニューヘイヴン                   |

|                |                                      |                          |                               |
|----------------|--------------------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| ◆重見周吉と学習院      |                                      |                          |                               |
| 23             | 修学履歴書                                | 明治26年7月                  | 学習院アーカイブズ                     |
| 24             | 学習院辞令簿 任学習院教授から非職満期まで全8通             | 明治26年9月7日<br>～明治38年9月28日 | 学習院アーカイブズ                     |
| 25             | 学習院時間割                               | 明治27年4月                  | 学習院アーカイブズ                     |
| 26             | 学習院輔仁会雑誌 第二十九号 A story to children   | 明治27年2月28日               | 学習院輔仁会                        |
| 27             | 学習院輔仁会雑誌 第三十一号 短歌12首                 | 明治27年5月22日               | 学習院輔仁会                        |
| 28             | 学習院輔仁会雑誌 第二十六号 An American boat race | 明治28年1月31日               | 学習院輔仁会                        |
| 29             | 学習院輔仁会雑誌 第四十四号 短歌10首                 | 明治29年5月31日               | 学習院輔仁会                        |
| ◆重見周吉と慈恵会医学校   |                                      |                          |                               |
| 30             | 東京慈恵会医科大学八十五年史 (p 70)                | 1965年                    | 東京慈恵会医科大学<br>学術情報センター         |
| 31             | 東京慈恵会医科大学百年史 (p 211, p 347, p 355)   | 1980年                    | 東京慈恵会医科大学<br>学術情報センター         |
| 32             | 東京慈恵会医科大学明治25年度卒業生写真                 | 1892年                    | 東京慈恵会医科大学<br>学術情報センター         |
| ◆重見周吉の医師としての記録 |                                      |                          |                               |
| 33             | 日本紳士録                                | 明治35年                    | 国立国会図書館 (第7版)                 |
| 34             | 帝国医鑑                                 | 明治43年.3                  | 国立国会図書館<br>(第1編 東京しの部)        |
| 35             | 日本医籍録                                | 昭和4年版                    | 国立国会図書館 (p 97)                |
| 36             | 帝国医師名簿                               | 大正8年                     | 国立国会図書館 (p 463)               |
| ◆重見周吉の墓        |                                      |                          |                               |
| 37             | 青山霊園地図                               | 2002年                    | 青山霊園事務所                       |
| 38             | 重見周吉墓発見時の写真                          | 2002年                    | 菅紀子撮影                         |
| ◆原書            |                                      |                          |                               |
| 39             | 『日本少年』A Japanese Boy by Himself (原書) | 1889年                    | Sheldon社 コネチカット<br>州ニューヘイヴン   |
| 40             | 『日本少年』(京都大学法学部図書館所蔵原書の複写)            | 1890年                    | Henry Holt社 ニューヨー<br>ク州ニューヨーク |
| ◆書籍            |                                      |                          |                               |
| 41             | 『日本少年』重見周吉の世界                        | 2003年                    | 創風社出版                         |
| 42             | 『日本少年』少年少女版                          | 2012年                    | 創風社出版                         |
| 43             | 『漱石全集』第十一巻                           | 1975年                    | 岩波書店                          |
| ◆その他           |                                      |                          |                               |
| 44             | 夏目漱石曾孫 Ken McClain 氏からの書簡            | 2017年                    | 菅紀子宛                          |
| 45             | ロンドン漱石記念館パンフレット                      | 1994年                    | ロンドン漱石記念館                     |
| 46             | 仙遊寺パンフレット                            | 2005年                    | 仙遊寺                           |
| 47             | イェール大学スターリング図書館パンフレット                | 2015年                    | イェール大学                        |
| 48             | イェール大学医学歴史図書館パンフレット                  | 2015年                    | イェール大学医学部                     |
| ◆パネル           |                                      |                          |                               |
| 49             | 夏目漱石翻訳書展パネルー<br>夏目漱石プロフィール (日本語)     | 2017年                    | 菅紀子作成                         |

|    |                                 |       |        |
|----|---------------------------------|-------|--------|
| 50 | 夏目漱石翻訳書展パネルー<br>夏目漱石プロフィール（英語）  | 2017年 | 菅紀子作成  |
| 51 | クラバムコモンの下宿史跡認定除幕式（日本語）          | 2017年 | 菅紀子作成  |
| 52 | クラバムコモンの下宿史跡認定除幕式（英語）           | 2017年 | 菅紀子作成  |
| 53 | 夏目漱石『坊っちゃん』×<br>重見周吉『日本少年』（日本語） | 2017年 | 菅紀子作成  |
| 54 | 夏目漱石『坊っちゃん』×<br>重見周吉『日本少年』（英語）  | 2017年 | 菅紀子作成  |
| 55 | 世界で翻訳された夏目漱石作品展 ポスター            | 2017年 | 南海放送作成 |

筆者目録作成

## 付 記

1. 資料 No. 12 について、外交資料館にて発見した重見の旅券発券記録のマイクロフィルム中隣の頁に新島襄の名前も発見した。重見と新島は同年数ヶ月の差で同じ北米東海岸地域へ渡航していた。
2. 本展覧会会期中、愛媛県美術館にて安倍能成～学習院中興の祖と称された偉人～展（愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会文化プログラム主催）が開催中であり、互いの展覧会案内を双方の展覧会場に置いた。
3. 会期後、官制学習院初期に奉職した重見周吉と、戦後民制への移行期以来私学となった学習院院長を務めた安倍能成について、「学習院に貢献した二人の愛媛県人 重見周吉と安倍能成、二つの展覧会」菅 紀子『文化愛媛』No. 80（2018年3月12日発行 公益財団法人愛媛県文化振興財団）に記した。
4. 本展に若干編集を加えた同名の展覧会を2018年7月14日から2018年8月31日まで、今治市中央図書館3Fギャラリーにて開催するとともに8月26日筆者による記念講演会を行う。